



AMR啓発グッズとラッピングバスを用いた市民啓発の取り組み

三重大学医学部附属病院 感染制御部

本取り組みは、

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
「地域における感染症対策に係るネットワークの標準モデルを検証・推進するための研究」
(研究代表者：田辺正樹)

分担研究「AMRに関する県民への普及・啓発に関する研究」(分担研究者：新居晶恵)
において実施されたものである

背景

- 薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、医療者だけでなく国民（市民）もAMR対策に参画する必要がある。
- しかし、AMRが注目されてからまだ間もないこともあり、AMRの知名度は低い状況にある。
- まずは『AMRという言葉が市民に知ってもらうこと』を目標に、2017年度より薬剤耐性対策推進月間である11月を中心に市民を対象とした啓発活動を行った。

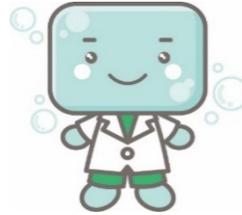
方法(1) イメージキャラクター、啓発グッズの作成



勇者コウキン
(抗菌薬をイメージ)



きゅあ嬢
(抗菌薬をイメージ)



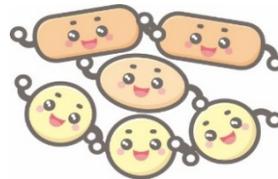
あわぶっくん
(石けんをイメージ)



タイセイキン
(耐性菌をイメージ)



サイキン
(細菌をイメージ)



乳さん菌ず
(乳酸菌をイメージ)



AMR関連啓発グッズの作成

AMR関連イメージキャラクターの作成

AMR関連のイメージキャラクターを6種類作り、各種啓発グッズを作成

方法(2) チラシ・ポスターの作成・配布／掲示



2017・2018年11月 JR津駅コンコースへのポスター掲示

チラシ

A4サイズ：29,500部

ポスター

A3サイズ：1,200部

B1サイズ：10部

- ・三重県内の病院（94）
 - ・三重県内の高齢者施設（232）
 - ・三重県内の保険薬局（738）
- にチラシとポスターを配布。

- ・2017年、2018年の各11月に
B1サイズの市民公開講座とAMR対策推
進月間ポスター各4枚を駅の連絡通路
に並べて掲示した。

方法(3) 市民公開講座など学習機会の提供

2017.2018年11月23日に市民公開講座を開催した。



参加者は、
2017年：子供40名・大人70名
2018年：大人157名
(うち70歳以上：45%)であった。

○講演の部

- ・細菌
- ・抗菌薬
- ・感染症／感染対策
について講演

○体験コーナー

- ・顕微鏡での微生物の観察
- ・手洗い演習
- ・咳エチケット体験
などのコーナーを設置

<反響>

- ・参加者アンケートでは、「良かった」との回答が80%程度。
- ・地元テレビ局のニュースとして市民公開講座の様子が流れることで、二次的啓発に。

方法(4) ラッピングバスの運行



11月のAMR推進月間のWorld Antibiotic Awareness Weekにあわせ、三重交通のバス2台側面にAMRに関する巨大ポスターを貼り2018年11月の1か月間、人通りが多い路線（津・四日市）で運行した。

方法(4) ラッピングバスの運行

「抗菌薬」適切に使用を



今月は薬剤耐性対策推進月間

抗生物質(抗菌薬)が効かない細菌の「薬剤耐性菌」が増え社会問題となっていることを受け、三重大病院(津市)は薬剤耐性について知ってもらおうと、三重交通の協力で今月から津市と四日市市でラッピングバスを走らせるPRを始めた。(斉藤和音)

中日新聞地方版
11/3

三重大がPRバス

十一月の薬剤耐性(AMR)対策推進月間に合わせた取り組み。一日に同病院駐車場でバスが披露された。三重交通の路線バスの左側面に「必要などき、必要な人に抗菌薬を」のメッセージと薬やせっけんなどをモチーフにしたキャラクターが描かれている。

同病院によると、薬剤耐性菌は、抗生物質を使いすぎるなど薬の不適切な使用で病原体に変化してできる。薬剤耐性菌が増えると、これまで抗菌薬で治っていた感染症が治りにくかったり、使える薬が減ったりする。

同病院感染制御部の田辺正樹部長は「抗菌薬は医師の指示通り飲み、とっておかない。薬をあげたりもらったりしない」と注意点を挙げる。また、感染症予防のために「手をきちんと洗い、せきが出るときはマスクを着け、ワクチンで感染症の流行を防いでほしい」と呼び掛けた。

津市と四日市市内で走り始めた薬剤耐性菌をPRするラッピングバス＝津市の三重大病院で

・新聞記事として掲載されることで、二次的啓発に。

まとめ

- 子どもや高齢者といった抗菌薬の使用頻度が高い集団を主な対象として、まずは、AMRという言葉を知ってもらうことを目標に啓発活動を行った。
- 顕微鏡での菌の観察や手洗いチェックはよく行われる内容ではあるが、体験して終了ではなく、AMR啓発グッズを渡すことで、家庭に帰ってからもAMRについて再度思いだす効果が期待される。
- 毎年11月にAMR啓発ポスターの掲示を続けていくことで、11月はAMR啓発月間であることの認識につながっていくことが期待される。
- AMR啓発ラッピングバスは、直接的な効果は不明であるが、バスの運転手からは人々の視線を感じるとのコメントがあり、一つの啓発方法になりえらと考えられた。